

1/2 (A) まっぴ! 倫理号です。今週は手違があったようで
今日もまた、楽しみにしたいです。私が病気でなくても、この日は
と思われて、そのぶん、ご心配ご無用です。 2013. 11. 30~12. 6

今週の
倫理

私は相変わらず元気な人です (けいこ 心願は 849号

下さい。) 景観と企業は一語でなんでしょうか、いざいも人が
一番なんじゃないですか。

幸せ運ぶアホ鳥

作家・司馬遼太郎の『陸奥のみち』に、こ
んな一節があります。「どこかの天体から人
がきて地球の美しさを教えてやらねばなら
ないはめになったとき、一番にこの種差海岸
に案内してやろうとおもったりした」

種差海岸は青森県八戸市東部にある海岸
です。下北半島から続く穏やかな砂浜と、三
陸海岸の険阻な岩礁、断崖の磯浜の景観が混
ざり合う地点です。

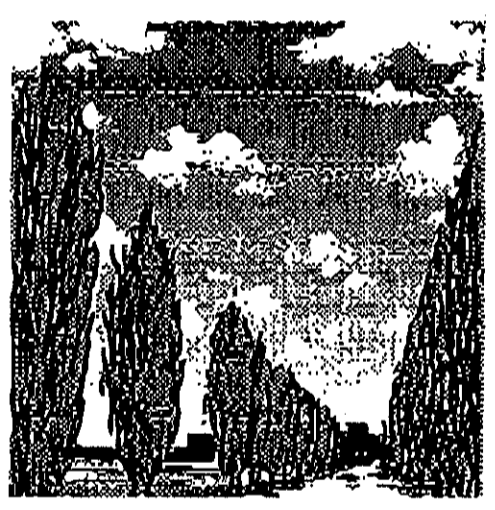
海岸には遊歩道が整備され、春から夏にか
けて、さまざまな海浜植物が咲き誇ります。
景観を保全するために、地域の人を中心にゴ
ミ拾い活動なども行なわれています。

美しい景観が地球の財産だとすれば、企業
の財産は「人」でしょう。

種差海岸がある八戸市に、人育てをモット
ーとする会社があります。昭和四十五年創業
の近田会計事務所です。創業時わずか四名の
所員のうち、二名は身内でした。現在の所長
である近田雄一氏が入所した時、給料をもら
えていたのは創業者の父と、一名の所員のみ。
「同居だったので何とか生活ができました」と
と近田氏は振り返ります。

慎ましやかな家族経営に転機が訪れたの
は、父の突然の入院でした。当時、仕事上で
必要な書類に押印する権限は、一人だけ税理
士の資格を持っていた父にありました。

近田氏は、書類を持って何度も病院と事務
所を往復します。税理士がいないことの大変
さを痛感すると共に、一人に任せざる運営で



雇用を生み、人を育てる 経営者の責任

はなく、人がたくさんいてフォローし合える
体制にすることを決意したのです。

父の後を継いだ近田氏は、事務所を大きく
していきました。年代によってスタッフの数
が偏らないよう、まばらな状態にならないよ
う、毎年新規の雇用を続けました。

折しもデジタル化が加速する時代。次々と
会計ソフトが開発され、人の代わりにパソコ
ンが導入される割合が増えました。また、バ
ブルの崩壊、長引く不況から、新しい人材を
雇用するリスクもありました。

近田会計事務所でも、財務状況が逼迫する
時期があったそうです。そのような中、一貫
して採用を続けました。その背景には、「人
がいなくては仕事にならない」という創業時
の苦い経験と、「地域のために働き口を作り
たい」との強い思いがあったのです。

「これからも雇用し、人を育て続けます」と
話す近田氏。そして、「採用した以上は責任
がある」との言葉通り、社員教育に力を注い
でいます。毎日の朝礼をベースに、営業部門
や顧客満足に関する部門などの委員会を作
り、積極的に勉強会を行なっています。

近田氏は「人を育て続けなければ会社はも
たない。仕事をするのは機械ではなく人だか
ら」と語ります。今では、六十三名の所員を
有する会計事務所となりました。

美しい景観も、人の手が入ることで保たれ
るように、会社の財産である人育ても、愛情
に裏づけされた「教育」が不可欠なのです。

絵・今谷 鉄柱